

2019/06/26

4班(佐名木 池亀 相田)

お金 2.0 新しい経済のルールと生き方

著者：佐藤航陽 出版：幻冬舎

第2章 テクノロジーが変えるお金のカタチ (p109~145)

テクノロジーの変化は点ではなく線で捉える (p110~123 担当：池亀)

- ・テクノロジーの変化を見るときは「点」ではなく「線」で捉えることが大事
- ・テクノロジーの変化を「線」で捉えるとは、
 - 現在の社会システムがどんな課題を解決するために作られたのか「原理」を理解
 - 最新テクノロジーがそこにどんな変化をもたらすのかを1つの「現象」として理解

今起きているのはあらゆる仕組みの「分散化」

- ・お金や経済の世界において、今後10年という単位で大きな変化の流れは「分散化」
- ・既存の経済や社会は「分散化」とは真逆の「中央集権化」によって秩序維持
- ・近代社会は「情報の非対称性」が前提。しかし現在は人間だけでなく、モノとモノとも常時接続される状態（ハイパーコネクティビティ）となる
⇒全体がバラバラに分散したネットワーク型の社会に変わっていく
- ・分散化が進んでいくと、独自に価値を発揮する経済システムそのものを作ることができる存在が大きな力を持つようになっている

分散化する社会とシェアリングエコノミー

- ・共有経済（シェアリングエコノミー）は社会が常に分散している状態ができて初めて機能
Ex) UBER Airbnb

・シェアリングエコノミーは、近代の「代理人型社会」とこれからの「ネットワーク型社会」の良いところを混ぜたハイブリット型のモデル

中国がリードするシェアの世界

- ・既存の社会インフラが整備されていない新興国であるため、新しいサービスが出ると一気に浸透するリープフロッグ現象
- ・Mobike という企業が取り組む自転車のシェアリングサービスが普及した背景

「評価経済」でまわる中国

- ・他者からの評価によって回る経済である「評価経済」
- ・ネットワーク型社会に移行するとお金のやりとりの主流が、従来の企業と個人間から、

個人と個人への流れに推移

コメント

評価経済では、B2C に見られるサービス受給者から提供者への一方的な評価ではなく、受給者・提供者の相互の評価であるため、よりフェアな関係性になると思われる。最近では、各サービスに蓄積されている個人や団体の信用を一元的に管理共有するシステムが構築されるようになった。組織内において人の評価の定量化自体は新しいものではないが、これがその領域以外に拡散されていくことがポイントだ。これまで曖昧であった「信用」の可視化はなかなか世知辛いかと思った。

国家を代替するトークンエコノミーの可能性 (p124~134 担当：佐名木)

- ・トークンエコノミーとシェアリングエコノミーは「分散化」という大きな流れの中のものと考えた方がよい

○トークン

→仮想通貨の基盤となるブロックチェーン上で流通する文字列のことを指す場合が多く、一般的には仮想通貨やブロックチェーン上で機能する独自の経済圏をトークンと呼ぶが、正確な定義はない

参考 URL

<http://e-words.jp/w/%E3%83%88%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%B3.html>

○トークンエコノミー

→仮想通貨やブロックチェーンの文脈から語られることが多い

○シェアリングエコノミー

→E コマースやソーシャル的な側面から語られることが多い

- ・トークンエコノミーの経済圏はネットワーク内で完結している
- ・トークンエコノミーとは国家が行ってきたこと（通貨発行、トークンの性質や流通ルール制定等）の縮小版を企業や個人が手軽に出来る仕組み

Ex) Kik が発行する独自の仮想通貨 Kin

報酬発生条件：コンテンツの up、広告の閲覧

Kin の特徴：ビットコインと交換可能、含み益を得られる

参考 URL <https://crypto-times.jp/crypto-kin/>

- ・通貨を発行する存在が手にする利益「シニョリッジ（通貨発行益）」
 - ・トークンの発行者は通貨発行益を得る代わりに優れた経済圏を作りそれを維持し続けなければいけない
- ちょっとの問題でユーザーが離れて経済圏が消滅してしまう不安定性があるため
- ・トークンエコノミーでは「ネットワーク効果（ユーザー数と経済圏の価値の比例）」が働く

トークン化する世界

- ・トークンによりあらゆるものの価値を可視化することができる

→兌換紙幣の価値は金塊と結びつけられていた

→トークンは「概念（感情、時間、サービスの機能、デジタルコンテンツ、文字）」と紐づけて流通させることでこれらの価値を可視化することができる

大まかに分けたトークンの3タイプ

①通貨型トークン →Tポイント、楽天ポイント

②配当型トークン →既存の株式や金融商品に近い

③会員権型トークン →ファンクラブ、優待割引、株主向け優待、ゴールド会員

完全に分散した経済システム：ビットコイン

- ・最も規模が大きく成功しているトークンエコノミーはビットコイン

- ・ビットコインの優れた点は通貨発行益を受ける対象まで分散化が進んでいる点

- ・ビットコインとビットコインキャッシュの分裂

→ビットコインは特定の存在が経済システム全体をコントロールしようとする、それに反対する人が離反して経済圏の価値が下がってしまうか、分裂してしまうことになるので、独占や支配が難しい仕組みになっている

- ・シェアリングエコノミーやトークンエコノミーの進化

→非中央集権的で自律分散型の有機的なシステムになっていくことを筆者は予想

コメント

トークンエコノミーの可能性は理解できた。Pen-D プロジェクトを行っている立場としても可能性を信じたい。ただ、多数の分散化した通貨システムが混在する市場は多くの人々にとって価値が法定通貨に一元化された市場よりも生活しづらいのではないかと思った。混在する貨幣を使いこなしていくための課題があると感じました。

「自律分散型」という次世代の成功モデル (p134~145 担当：相田)

- ・分散化 =非中央集権

- ・自動化 AI にディープラーニング(膨大なデータを機械に学習させる)という手法をさせることで、特徴量の抽出を自動で行うことができる。

- ・分散化と自動化が混ざったものが「自律分散型」

- ・この自律分散型の仕組みが今後、成功モデルとして普及していく可能性が高い。

AI とブロックチェーンによる無人ヘッジファンド

Numerai=AI とブロックチェーンによって運営される無人ヘッジファンド

- ・まず匿名の1万人以上のデータサイエンティストが機械学習などで投資モデルを作る



そのモデルで収益が上がった場合、Numerai が発行するトークンが成果に応じて、報酬をそのデータサイエンティストに分配する仕組み。

- ・この報酬はブロックチェーン上にプログラミングされたルール通りに自動的に分配される。
- ・クラウドソーシング、人工知能、ブロックチェーンを上手く組み合わせることで自律分散の仕組みを実現している。

中国の無人コンビニ

BingoBox

- ・コンビニは電子施錠されている。入口のバーコードをスキャンして、WeChat のアカウントを認証すると鍵が自動的に開いて中に入れる仕組み。
 - ・会計を済ませずに出ようとしても、入口の鍵が開かないようになっている。
 - ・中国では SNS やスマホ決済と関連している信用スコアがあり、悪いことをするとスコアが下がり、利用できなくなってしまう可能性がある。
- このようにして犯罪を防止している。
- ・発展系として、全国のコンビニで使うことが出来るトークンや割引を受けられるトークンなどを発行することで、独自の経済圏を作ることが可能。それは従来のビジネスの収益構造を抜本的に変えてしまう破壊力がある。

テクノロジーによって経済は「作る」対象が変わった

- ・スマホやブロックチェーンなどのテクノロジーを使うことで、個人や企業が自分なりの経済を簡単に作れてしまう。
- つまり「経済そのものの民主化」が起こる。
- ・万人が経済を自らの手で作れるようになると、社会が大きく変化する。



「お金」そのものもコモディティ化していき、今ほど貴重なものとは考えられなくなる。



お金そのものに価値がなくなると、どのように経済圏を作って回していくかというノウハウこそが重要な時代が変わって行く

コメント

無人のコンビニがあるということに驚いた。しかし、犯罪を防止するためとはいえ、いちいちアカウントの認証が必要なことは面倒なことだと感じた。コンビニは誰もが気軽に店内に入れるべきだと思うので、もう少し簡単に店内に入れるようにすることはできないのかと思った。